

令和5年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	社会福祉法人 高田福祉会	代表者	小菅 貞一	法人・事業所の特徴	平成20年6月に併設するサテライト型特別養護老人ホーム笛吹の里とともに開設。のんびりと穏やかな雰囲気の事業所です。地域交流が広がり恒例となった夏の納涼祭には毎年たくさんの方から参加いただき、多世代間交流の場となっています。法人理念は「笑顔あふれる毎日」。利用される方それぞれの「その人らしい暮らし」「～したい」が少しでも実現できるように、本人の思いを大切に、家族や地域の理解や協力をいただきながら「訪問」「通い」「泊まり」を組み合わせた柔軟な介護サービスの提供で地域での暮らしをサポートします。
事業所名	ケアホーム笛吹の里	管理者	中村 啓一郎		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	2人	2人	1人	1人	1人	0人	5人	0人	12人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所 自己評価 の確認	今年度実施できなかった改善計画を感染状況を見ながら実施していく	感染状況を見ながら地域と関わる機会を増やすことができた。	地域との関わりは十分だと思うができていないという評価が多い。自己評価が厳しすぎないか	/
B. 事業所の しつらえ ・環境	利用者が楽しめ、地域の方が訪れたくなるような中庭を利用者と共に整備	利用者の力を活かし、畑、芝桜の整備、ベンチの作製などを実施した。	特になし	地域の方と交流が図れるような中庭を利用者と共に整備する
C. 事業所と 地域の かかわり	地域のサロンへの参加や広報誌を通じて事業所の役割を発信し、地域に頼られる事業所を目指す	サロンや地域のイベントに参加し、地域の方々との交流は増えてきた。広報誌の内容を活動報告だけではなく、事業所で何ができるのかを発信した。今後も継続して発信していく	特になし	地域のサロンや広報誌を通じて事業所の役割や見学の案内などを発信し、地域に頼られる事業所を目指す

<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み</p>	<p>地区運動会や夏祭りなど地域のイベントに参加する 住み慣れた地域のサロンや認知症カフェに参加し、地域の方との交流を図る</p>	<p>三郷地区で開催されたイベントには積極的に参加できたが、三郷地区以外の地区は情報も得られず参加できなかった。</p>	<p>特になし</p>	<p>家族や民生委員、各地区の地域包括支援センターを通じてサロンやイベント開催情報を収集し、利用者・家族に提案する</p>
<p>E. 運営推進会議を活かした取り組み</p>	<p>運営推進会議の検討項目をより具体的な内容にすることで地域の困り事などに活かす</p>	<p>各委員が地域で感じていることや困り事などを検討する機会が増え、地域のニーズも少しずつ理解できてきた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組み姿勢はとても良いと思う ・地域のことをよほど把握していないとできないと思う。そこまで求めるのも如何なものか？ ・町内としてもどこまで言っているかわからない 	<p>運営推進会議の検討項目をより具体的な内容にすることで地域の困り事などに活かす（継続）</p>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>災害時に地域の方に対し施設が提供できることを運営推進会議や広報誌、防災訓練を通じて発信する</p>	<p>地震発生時に施設で対応できることを運営推進会議と広報誌にて発信した。 断水時のトイレの作り方を地域にも案内を出し防災士指導の下、実施した。</p>	<p>一般避難所と施設との連携も今後必要になってくる</p>	<p>今年度の改善計画を継続。 来年度は市職員も運営推進会議に参加予定にて一般避難所と施設との連携についても検討していく</p>